

IV 専門分野

専門分野 基礎看護学

KPYSN

看護学原論

対応 DP: I

履修年次: 1 年次 前期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: 看護の定義 看護の対象 看護の役割 看護倫理 看護理論 制度

学習目的: 看護学の導入として、看護の本質について学び、看護全体の概要について学ぶ。看護の対象である人間を統合的にとらえ、看護の役割、機能を学習する。また看護専門職として人のいのちと向き合う責務、倫理観を養い、看護者としての厳しさ、感動を自覚し、看護とは何かを追求する力を身につけられるよう看護学の基盤を学習する。

到達目標:

1. 看護の定義や看護の対象について理解する
2. 看護実践のための理論的根拠を理解する
3. 看護の提供のしくみについて理解する
4. 看護における倫理について理解する
5. 看護の基盤となる理論から看護の概念について理解する
6. 看護をめぐる制度と政策について理解する

授業内容:

第 1 回	看護の定義 (看護の本質 定義 役割と機能)
第 2 回	看護の対象となる個人・家族・地域の理解①(人間 健康 生活者)
第 3 回	看護の対象となる個人・家族・地域の理解②(環境 家族 地域と健康)
第 4 回	看護の変遷
第 5 回	看護実践のための理論的根拠①(科学的根拠)
第 6 回	看護実践のための理論的根拠②(ヒューマンケアリング)
第 7 回	看護の基盤となる理論 (ナيتينゲール、ヘンダーソン)
第 8 回	ナيتينゲールの看護
第 9 回	ナيتينゲールの看護 グループ発表
第 10 回	看護の提供のしくみ①(看護サービスの提供の場)
第 11 回	看護の提供のしくみ②(チーム医療 多職種)
第 12 回	看護における倫理
第 13 回	看護をめぐる制度と政策①(看護職の資格と養成にかかわる制度 法的側面など)
第 14 回	看護をめぐる制度と政策②(看護と経済 診療報酬と人員配置)
第 15 回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(1) 看護学概論 医学書院
ヴァージニア・ヘンダーソン 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会
フロレンス・ナيتينゲール 「看護覚え書き」 日本看護協会出版会

参考図書: ジーン・ワトソン 「ワトソン看護論ヒューマンケアリングの科学」 医学書院

評価方法: 筆記試験 100 点

履修年次: 1年次 前期 単位数: 1単位 時間数: 15時間

担当教員: 専任教員

Keywords: コミュニケーション技術 人間関係 プロセスレコード

学習目的: 看護実践の基本となる人間関係について理解し、人と人との関わりについて、ヒューマン・ケアリングがもたらす相互性、関係性を深めながら、看護を実践することの大切さを学ぶ。さらにその体験から相互に成長できる人間関係技術について学習する。

到達目標: 1. 看護実践の基本となる対象理解のためのコミュニケーション技術について理解することができる
2. 看護における人間関係を考えることができる
プロセスレコードの作成等を通し人間関係の相互作用について考えることができる

授業内容: 第1回 対象を理解するためのコミュニケーション技術
第2回 看護専門職として求められるコミュニケーション【演習】
第3回 看護実践に活かすプロセスレコード①
第4回 看護場面のコミュニケーションにおける人間関係①【演習】
第5回 看護場面のコミュニケーションにおける人間関係②【演習】
第6回 看護実践に活かすプロセスレコード②【演習】
第7回 コミュニケーション技術まとめ
第8回 評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術 I 医学書院
ヴァージニア・ヘンダーソン 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会
ジーン・ワトソン 「ワトソン看護論 ヒューマンケアリングの科学」 医学書院

評価方法: 筆記試験 100点

生活援助技術論 I

対応 DP:3

履修年次: 1 年次 前期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: 看護技術 安全確保 感染防止 標準予防策 環境調整 リネン類の取り扱い 安楽

学習目的: 人間にとって生活環境、健康生活を保持するため、欠かすことのできない基本的な感染防止、環境調整技術について、技術的根拠を基に、原理・原則を踏まえた安全・安楽な看護技術を習得する。さらに、個性や自立度など対象に合わせた看護について学習する。

到達目標:

1. 看護技術の基本原則と特徴を理解することができる
2. 安全及び安楽確保の基本的知識とともに事故防止の重要性を理解することができる
3. 感染防止の基本的知識を理解し、標準予防策を実施することができる
4. 環境調整の基本的知識を理解し、安全・安楽に援助を実施することができる

授業内容:

第 1 回	看護技術の基本原則と特徴
第 2 回	安全確保の基礎知識と技術
第 3 回	感染防止の基礎知識と技術 【演習】
第 4 回	環境調整技術①
第 5 回	環境調整技術② ベッドメイキング 【演習】
第 6・7 回	環境調整技術③④ ベッドメイキング 【演習】
第 8・9 回	環境調整技術⑤⑥ 環境整備・リネン交換 【演習】
第 10・11 回	環境調整技術⑦⑧ 臥床患者のリネン交換【演習】
第 12・13 回	環境調整技術⑨⑩ 病室の環境のアセスメントと調整 【演習】
第 14 回	環境調整技術⑪ 病室の環境のアセスメントと調整 【演習】
第 15 回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術 I 医学書院
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術 II 医学書院
看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア
ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会
フロレンス・ナイティンゲール「看護覚え書き」 日本看護協会出版会

評価方法: 筆記試験 100 点

生活援助技術論Ⅱ

対応 DP:3

履修年次: 1 年次 前期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: 体位 ボディメカニクス 移動・移乗 休息・睡眠 食事 排泄

学習目的: 人間にとって生活環境、健康生活を保持するため、欠かすことのできない活動・休息援助技術、食事・排泄援助について、技術的根拠を基に、原理・原則を踏まえた安全・安楽な看護技術を習得する。さらに、個性や自立度など対象に合わせた看護について学習する。

到達目標: 1. 活動・休息援助技術の基本的知識を理解し、安全・安楽に留意し技術を実施できる
2. 食事の基本的知識を理解し、食事援助を実施することができる
3. 排泄の基本的知識を理解し、排泄援助を実施することができる

授業内容: 第 1 回 活動・休息援助技術①
第 2 回 活動・休息援助技術②
第 3・4 回 活動・休息援助技術③④ 【演習】
第 5・6 回 活動・休息援助技術⑤⑥ 【演習】
第 7 回 食事援助技術①
第 8 回 食事援助技術②
第 9・10 回 食事援助技術③④ 【演習】
第 11 回 排泄援助技術①
第 12 回 排泄援助技術②
第 13・14 回 排泄援助技術③④ 【演習】
第 15 回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア
ヴァージニア・ヘンダーソン 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会
フロレンス・ナイティンゲール 「看護覚え書き」 日本看護協会出版会

評価方法: 筆記試験 100 点

生活援助技術論Ⅲ

対応 DP:3

履修年次: 1 年次 後期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: 清潔 衣生活 全身清拭 寝衣交換 手浴 足浴 洗髪 陰部洗浄

学習目的: 人間にとって生活環境、健康生活を保持するため、欠かすことのできない清潔・衣生活援助技術について、技術的根拠を基に、原理・原則を踏まえた安全・安楽な看護技術を習得する。さらに、個別性や自立度など対象に合わせた看護について学習する。

到達目標: 1. 清潔の基本的知識を理解し、清潔援助を実施することができる
2. 衣生活の基本的知識を理解し、衣生活援助を実施することができる

授業内容: 第1回 清潔・衣生活援助技術①
第2回 清潔・衣生活援助技術②
第3・4回 清潔・衣生活援助技術③④ 全身清拭・寝衣交換【演習】
第5・6回 清潔・衣生活援助技術⑤⑥ 全身清拭・寝衣交換【演習】
第7・8回 清潔・衣生活援助技術⑦⑧ 部分的な清潔援助 洗髪【演習】
第9・10回 清潔・衣生活援助技術⑨⑩ 部分的な清潔援助 手浴・足浴【演習】
第11・12回 清潔・衣生活援助技術⑪⑫ 部分的な清潔援助 陰部洗浄【演習】
第13・14回 清潔・衣生活援助技術⑬⑭ 身体清潔のアセスメントと援助【演習】
第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア
ヴァージニア・ヘンダーソン 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会
フロレンス・ナイティンゲール 「看護覚え書き」 日本看護協会出版会

評価方法: 筆記試験 100 点

ヘルスアセスメント I

対応 DP:3

履修年次: 1 年次 前期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: ヘルスアセスメント フィジカルアセスメント 心理・社会的側面のアセスメント

学習目的: 解剖生理学、心理学、社会学等の基礎知識を活かし、看護におけるヘルスアセスメントの意義を理解するとともに、フィジカルイグザミネーションの方法を学習し、バイタルサイン測定を中心に身体の状態を把握するための基本的技術を習得する。

到達目標:

1. ヘルスアセスメント(身体・心理・社会面)のもつ意味や視点を理解することができる
2. フィジカルアセスメントの目的や基本技術を理解することができる
3. バイタルサイン測定の意義や測定値の正常・異常を理解することができる
4. 対象の安全安楽を確保し、バイタルサイン測定を正確に実施することができる

授業内容:

第 1 回	ヘルスアセスメント① ヘルスアセスメントが持つ意味と視点(身体的)
第 2 回	ヘルスアセスメント② 心理・社会的側面のアセスメント
第 3 回	フィジカルアセスメント①
第 4 回	フィジカルアセスメント② バイタルサイン測定:体温・呼吸・脈拍【演習】
第 5 回	フィジカルアセスメント③ バイタルサイン測定:血圧【演習】
第 6 回	フィジカルアセスメント④ バイタルサイン測定:血圧【演習】
第 7・8 回	フィジカルアセスメント⑤⑥ バイタルサイン測定:一連の測定・報告【演習】
第 9・10 回	フィジカルアセスメント⑦⑧ バイタルサイン測定:一連の測定・報告【演習】
第 11・12 回	フィジカルアセスメント⑨⑩ バイタルサイン測定:技術確認【演習】
第 13・14 回	フィジカルアセスメント⑪⑫ バイタルサイン測定:技術確認後まとめ【演習】
第 15 回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術 I 医学書院
系統看護講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術 II 医学書院
ヴァージニア・ヘンダーソン 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会

参考図書: フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア

評価方法: 筆記試験 100 点

ヘルスアセスメントⅡ

対応 DP:3

履修年次: 1 年次 後期 単位数: 1 単位 時間数: 15 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: フィジカルアセスメント フィジカルイグザミネーション 観察

学習目的: ヘルスアセスメントの考え方を基盤に、解剖生理学の基礎知識やバイタルサイン測定における観察の視点を活かしながら、看護におけるフィジカルイグザミネーションの方法を学習し、全身の状態を的確に系統的に把握するための基本的技術を習得する。

到達目標: 1. フィジカルアセスメントに必要な情報を系統的に把握するための基本的知識を理解することができる
2. フィジカルイグザミネーションの基本的技術を理解できる

授業内容: 第1回 ヘルスアセスメント フィジカルアセスメント① 呼吸器系の観察とアセスメント
第2回 フィジカルアセスメント② 循環器系の観察とアセスメント
第3回 フィジカルアセスメント③ 腹部・乳房の観察とアセスメント
第4・5回 フィジカルアセスメント④⑤ 呼吸器・循環器系・腹部の観察とアセスメント【演習】
第6回 フィジカルアセスメント⑥ 筋・骨格系、神経系の観察とアセスメント
第7回 フィジカルアセスメント⑦ 筋・骨格系、神経系の観察とアセスメント【演習】
第8回 評価

テキスト: 系統看護講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ 医学書院
ヴァージニア・ヘンダーソン 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会

参考図書: フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア

評価方法: 筆記試験100点

看護過程総論

対応 DP:3

履修年次: 1 年次 前期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: 看護過程 臨床判断能力 クリティカルシンキング ヘンダーソン看護論

学習目的: 看護過程の活用により、対象を統合的に捉え、科学的根拠に基づく看護実践のプロセスとともに、ヘンダーソン看護論を用い、看護過程の基礎を理解する。自らの「気づき」による判断のもと、対象を尊重した看護実践を行えるような臨床判断能力の基礎を養う。

到達目標: 1. 看護過程の構成要素や看護過程の各過程の意味を理解することができる
2. 看護過程を展開する際に基盤となる臨床判断能力の重要性を考えることができる
3. ヘンダーソン看護論を活用した看護過程の基礎を理解することができる

授業内容:

第 1 回	看護過程① 看護過程とは
第 2・3 回	看護過程②③ 観察と情報収集
第 4 回	看護過程④ 看護記録・電子カルテ
第 5 回	看護過程⑤ 記録用紙の記載方法
第 6 回	看護過程⑥ 看護における報告【演習】
第 7 回	看護過程⑦ 看護過程を展開する際に基盤となる考え方
第 8 回	看護過程⑧ ヘンダーソン看護論
第 9・10 回	看護過程⑨⑩ ヘンダーソン看護論
第 11・12 回	看護過程⑪⑫ ヘンダーソン看護論による看護過程の展開
第 13 回	看護過程⑬ ヘンダーソン看護論による看護過程の展開【演習】
第 14 回	看護過程⑭ 演習のまとめ
第 15 回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術 I 医学書院
ヴァージニア・ヘンダーソン「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会
看護過程に沿った対症看護 学研メディカル秀潤社

参考図書: 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ニューヴェルヒロカワ

評価方法: 筆記試験 100点

看護過程実践論

対応 DP:3

履修年次: 1 年次 後期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: 看護過程 アセスメント 看護計画 呼吸困難 発熱 体液調整 腹部膨満・便秘

学習目的: ヘンダーソン看護論を用い、看護過程の基礎を理解する。自らの「気づき」による判断のもと、対象を尊重した看護実践を行えるような臨床判断能力の基礎を養う。フィジカルアセスメントや解剖生理学の知識をふまえ、症状別の看護を理解し、看護過程における看護実践に生かす。

到達目標: 1. ヘンダーソン看護論を活用した看護過程について事例を通じ理解することができる
2. 対象の症状の原因やメカニズムを理解しアセスメントや計画に活用することができる

授業内容:

第 1 回	アセスメント① 「姿勢」
第 2 回	アセスメント② 「休息と睡眠」「環境」
第 3 回	アセスメント③ 「排泄」「食事」
第 4 回	アセスメント④ 「清潔」「衣服」
第 5 回	アセスメント⑤ 「呼吸」「体温」
第 6 回	アセスメント⑥ 「仕事達成感」「意思伝達」「学習」
第 7 回	アセスメント⑦ 「信仰」「レクリエーション」
第 8 回	発熱の症状を示す対象の看護 【演習】
第 9 回	苦痛の緩和・安楽確保の技術【演習】
第 10 回	看護計画① 看護上の問題の明確化
第 11 回	看護計画② 優先順位の根拠・立案
第 12・13 回	看護計画③④ 実施・評価・修正 【演習】
第 14 回	看護過程まとめ 14の構成要素から看護実践を振り返る
第 15 回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(2) 基礎看護技術 I 医学書院
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術 II 医学書院
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(4) 臨床看護総論 医学書院
ヴァージニア・ヘンダーソン 「看護の基本となるもの」 日本看護協会出版会
看護過程に沿った対症看護 学研メディカル秀潤社

参考図書: 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ニューヴェルヒロカワ

評価方法: 筆記試験 80 点 レポート 20 点

臨床看護技術論

対応 DP:3

履修年次: 2 年次 前期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: 無菌操作 薬物療法 6R の確認 診察 検査

学習目的: 健康障害をもつ対象への治療・処置に応じた看護と原理・原則を踏まえた看護技術を学習する。

到達目標: 1. 無菌操作の基本的知識を理解し、滅菌物を取り扱うことができる
2. 与薬の基本的知識を理解し、対象の安全に配慮し与薬を実施することができる
3. 診察や検査の目的看護師の役割を理解し、実施することができる

授業内容: 第 1 回 感染防止の技術①
第 2・3 回 感染防止の技術②③ 無菌操作 【演習】
第 4 回 与薬の技術①
第 5 回 与薬の技術②
第 6・7 回 与薬の技術③④ 与薬 【演習】
第 8 回 与薬の技術⑤
第 9・10 回 与薬の技術⑥⑦ 輸液療法 【演習】
第 11 回 診察・検査・処置の介助技術①
第 12 回 診察・検査・処置の介助技術②
第 13 回 診察・検査・処置の介助技術③ 血液検査 【演習】 静脈血採血
第 14 回 診察・検査・処置の介助技術④ 包帯法 【演習】
第 15 回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(3) 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学(4) 臨床看護総論 医学書院
看護がみえる② 臨床看護技術 メディックメディア

評価方法: 筆記試験 100点

看護研究 I

対応 DP:5

履修年次: 2 年次 後期 単位数: 1 単位 時間数: 15 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: 看護研究 倫理 ケースレポート 研究課題 研究計画書 文献検索 文献検討

学習目的: 看護研究の意義・方法を学ぶことにより、研究への基本的姿勢を学び、研究論文の文献検討(クリティーク)を通し看護現象を客観的に捉え、論理的・科学的に探究する姿勢を学ぶ。

到達目標:

1. 看護研究の意義や専門職業人としての研究の必要性を理解することができる
2. 研究の過程を理解することができる
3. 研究論文の文献検討(クリティーク)を通し、文献検索方法とともに論文を読む客観的視点を理解することができる

授業内容:

第 1 回	看護研究とは
第 2 回	研究の過程
第 3 回	ケースレポートの方法と実際
第 4・5 回	文献検索の実際(コンピューター実習室)
第 6 回	文献検討(クリティーク)の実際①
第 7 回	文献検討(クリティーク)の実際②
第 8 回	評価

テキスト: 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院

参考図書: 高橋百合子 看護学生ためのケース・スタディ メヂカルフレンド社
松本孚・森田夏実編集 看護のためのわかりやすいケース・スタディの進め方 照林社

評価方法: 筆記試験 80 点 レポート 20 点

看護研究Ⅱ

対応 DP:5

履修年次: 3年次 前期 単位数: 1単位 時間数: 15時間

担当教員: 専任教員

Keywords: 看護研究 倫理 ケースレポート 研究課題 研究計画書 文献検索

学習目的: 担当した事例の実践のプロセスを振り返り、客観的にその意味を考察することにより、3年間の学習過程を考えることができる。ケースレポートの作成を通じ、看護について思考することにより、ヒューマン・ケアリングや自己の看護観を深め、将来にわたる看護専門職への発展へつなげることができる。

到達目標: 1. 研究テーマを明らかにし、研究計画書を作成することができる
2. 研究計画書をもとに、ケースレポートの作成を通じ自己の看護観を深めることができる

授業内容:

第1回	研究計画書の作成とすすめ方
第2回	研究課題の明確化
第3回	ケースレポート作成にあたって
第4回	ケースレポート作成の実際①
第5回	ケースレポート作成の実際②
第6回	ケースレポート作成の実際③
第7回	ケースレポート作成の実際④
第8回	評価

テキスト: 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院

参考図書: 高橋百合子 看護学生のためのケース・スタディ メヂカルフレンド社
松本孚・森田夏実編集 看護のためのわかりやすいケース・スタディの進め方 照林社

評価方法: レポート 100点

地域・在宅看護論概論 I

対応 DP: 4

履修年次: 1 年次前期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: 地域・在宅看護の概念 地域包括ケアシステム 社会資源 多職種 介護保険制度

学習目的: 地域・在宅看護論が必要とされる背景と基本理念をふまえ、人々が生活する地域を捉える視点や、地域における社会資源についての知識を習得する。

到達目標: 1. 地域を捉える視点を理解する
2. 地域・在宅看護が必要とされる背景と基本的概念について理解する
3. 生活者の視点から地域での生活を支える法・制度・社会資源について理解する

授業内容:

第 1 回	地域で生活すること
第 2 回	私たちの生活する地域①
第 3 回	私たちの生活する地域②
第 4 回	地域・在宅看護の社会的背景と目的
第 5 回	地域・在宅看護の対象
第 6 回	地域・在宅看護に関わる法と制度①
第 7 回	地域・在宅看護に関わる法と制度②
第 8 回	地域・在宅看護に関わる法と制度③
第 9 回	地域包括ケアシステム
第 10 回	地域包括ケアシステムを調べてみよう①
第 11 回	地域包括ケアシステムを調べてみよう②
第 12 回	地域包括ケアシステムを調べてみよう③
第 13 回	地域包括ケアシステム調査発表
第 14 回	地域包括ケアシステム調査発表とまとめ
第 15 回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(1) 地域・在宅看護の基盤 医学書院

評価方法: 筆記試験 80 点 レポート 20 点

地域・在宅看護論概論Ⅱ

対応 DP: I

履修年次: I 年次後期 単位数: I 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員 櫻井 大輔

Keywords: 地域の生活 老人クラブ 介護保険サービス ケアマネジメント 家族看護

学習目的: 地域で生活するさまざまな年代・健康状態の人々が、健康的な生活をめざし、制度やサービスを活用するための基礎的知識を習得する。

到達目標:

1. 地域・在宅看護における対象の多様性を知る
2. 地域における健康な高齢者の生活を知る
3. 生活を支援するための社会資源とその活用方法を理解する
4. 意思決定支援を前提とするケアマネジメントの機能と考え方を理解する
5. 地域における家族アセスメントの意義と内容を理解する

授業内容:

第1回	地域で生活するさまざまな人々
第2回	地域における人々の生活とQOL
第3・4回	健康な高齢者の生活①② 老人クラブ参加
第5回	健康な高齢者の生活③ 発表
第6回	地域の高齢者を支える介護保険サービス①
第7回	地域の高齢者を支える介護保険サービス②
第8回	在宅における住環境整備
第9回	ケアマネジメントと多職種連携
第10回	地域のくらしを支えるケアマネジメント①
第11回	地域のくらしを支えるケアマネジメント②
第12回	地域のくらしを支えるケアマネジメント③
第13回	地域・在宅における家族看護① <<外部講師>>
第14回	地域・在宅における家族看護② <<外部講師>>
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(1) 地域・在宅看護の基盤 医学書院
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(2) 地域・在宅看護の実践 医学書院

評価方法: 筆記試験 80点 レポート20点

地域・在宅看護援助論 I

対応 DP: 4

履修年次: 2年次前期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 専任教員 宮崎 玲美 鶴見 恵子 太田黒 貴代 遠藤 美和子 齊藤 敬子

Keywords: 入退院支援 訪問看護 看護過程 多職種連携 意思決定支援

学習目的: 地域での生活を支えるさまざまな場所での看護の機能と役割を知り、その展開方法についての基礎的知識を習得する。

到達目標: 1. 地域におけるさまざまな看護の役割を理解する
2. 地域・在宅看護の展開方法を理解する
3. 地域での生活を支えるために必要な多職種連携や継続看護について理解する

授業内容:

第1回	地域におけるさまざまな場での看護
第2回	継続看護と入退院支援
第3回	外来看護の実際 <<外部講師>>
第4回	入退院支援部門での看護の実際 <<外部講師>>
第5回	MSWの機能と看護との連携 <<外部講師>>
第6回	訪問看護の機能と制度
第7回	訪問看護の実際 <<外部講師>>
第8回	地域における精神障害を持つ人への看護の実際 <<外部講師>>
第9回	地域・在宅看護過程の特徴
第10回	地域・在宅看護過程①
第11回	地域・在宅看護過程②
第12回	地域・在宅看護過程③
第13回	地域・在宅看護過程④
第14回	地域・在宅看護過程⑤
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(1) 地域・在宅看護の基盤 医学書院
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(2) 地域・在宅看護の実践 医学書院

評価方法: 筆記試験 100点

地域・在宅看護援助論Ⅱ

対応 DP: 4

履修年次: 2年次後期 単位数: 2単位 時間数: 30時間

担当教員: 専任教員

Keywords: リスクマネジメント 浣腸 摘便 シャワー浴介助 経管栄養 HOT 多職種連携

学習目的: 地域・在宅看護実践における基本的援助技術を習得する。

- 到達目標:
1. 地域・在宅で求められる基本的援助技術を理解する
 2. 地域・在宅におけるリスクマネジメントの視点と特徴を理解する
 3. 地域・在宅において多職種と協働して看護を実践する方法を理解する
-

授業内容:	第1回	家庭訪問技術と地域・在宅における日常生活援助
	第2回	地域・在宅におけるリスクマネジメント
	第3回	要介護高齢者ケアと虐待防止
	第4回	呼吸の援助(HOT・NPPV・HMV)
	第5回	排泄援助(浣腸・摘便)
	第6回	浣腸・摘便・シャワー浴介助の計画立案
	第7・8回	浣腸・摘便・シャワー浴介助①②【演習】
	第9回	褥瘡管理
	第10回	食事・栄養の援助(経管栄養法・HPN)
	第11回	経管栄養法の計画立案
	第12・13回	経管栄養法①②【演習】
	第14回	地域・在宅における援助技術のまとめ
	第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(1) 地域・在宅看護の基盤 医学書院
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(2) 地域・在宅看護の実践 医学書院

評価方法: 筆記試験 80点 レポート 20点

地域・在宅看護援助論Ⅲ

対応 DP: 4

履修年次: 3年次前期 単位数: 1単位 時間数: 15時間

担当教員: 専任教員 福澤 邦康 小桧山 美子

Keywords: 意思決定支援 ACP エンドオブライフケア グリーフケア

学習目的: 地域で最期まで暮らし続けること支援するための知識を習得し、自身の考えを深める。

到達目標:

1. アドバンス・ケア・プランニングにおける看護師の役割を理解する
2. 地域・在宅におけるエンドオブライフケアの必要性や意義を理解する
3. エンドオブライフケアについての自身の考えを述べるができる

授業内容:

第1回	地域での生活を支える意思決定支援
第2回	地域におけるエンドオブライフケア
第3回	地域における看取りの実際 <<外部講師>>
第4回	訪問看護におけるエンドオブライフケアの実際 <<外部講師>>
第5回	地域・在宅で最期を迎えるための支援①
第6回	地域・在宅で最期を迎えるための支援②
第7回	地域・在宅で最期を迎えるための支援③
第8回	評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(1) 地域・在宅看護の基盤 医学書院
系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論(2) 地域・在宅看護の実践 医学書院

評価方法: 筆記試験 100点

成人看護学概論

対応 DP: I

履修年次: 1年次 後期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: 成人期の特徴 発達課題 成人期の健康問題 健康状態の特徴

学習目的: ライフサイクルにおける成人期の特徴と成人期の健康に影響を及ぼす問題、成人への看護アプローチの基礎について学ぶ。さらに4つの健康状態の特徴を理解し、看護実践を学ぶ上での基盤とする。

到達目標:

1. 成人期の特徴と発達課題を理解する
2. 成人を取り巻く社会や生活の特徴を理解する
3. 成人期の健康問題について理解する
4. 4つの健康状態の特徴について理解する

授業内容:

第1回	ライフサイクルからみた成人期
第2回	成人期の発達課題
第3回	成人を取り巻く環境と生活
第4回	成人のヘルスケアシステム
第5回	成人への意思決定支援と看護アプローチ
第6回	健康をおびやかす状況①
第7回	健康をおびやかす状況②
第8回	健康をおびやかす状況③
第9回	身近な人の健康問題を考える① GW
第10回	身近な人の健康問題を考える② 発表
第11回	健康状態の理解①:急性期
第12回	健康状態の理解②:回復期
第13回	健康状態の理解③:慢性期
第14回	健康状態の理解④:終末期
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(1) 成人看護学総論 医学書院

参考図書: 国民衛生の動向 厚生労働統計協会

評価方法: 筆記試験 100 点

成人看護援助論 I

対応 DP: 3

履修年次: 2年次 前期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員 江崎 まり子

Keywords: 慢性期看護 生活の再構築 看護過程 学習支援

学習目的: 慢性的な健康状態にある人が疾患と共存しながら、生活を再調整し、再発予防や身体機能の維持・改善ができるよう、意思決定支援やセルフマネジメントに向けた看護について学ぶ。

到達目標: 1. 慢性的な健康状態にある人を理解するための概念を理解できる
2. 事例をもとに看護過程を展開し、慢性的な健康状態にある人の看護が理解できる
3. 慢性的な健康状態にある人への学習支援について理解できる

授業内容:

第 1 回	慢性的な健康障害を持つ対象を理解するための概念
第 2 回	肝機能障害のある人の看護①
第 3 回	肝機能障害のある人の看護②
第 4 回	糖尿病のある人の看護①
第 5 回	糖尿病のある人の看護②
第 6 回	慢性的な健康状態にある人の看護:看護過程①
第 7 回	慢性的な健康状態にある人の看護:看護過程②
第 8 回	慢性的な健康状態にある人の看護:看護過程③
第 9 回	慢性的な健康状態にある人の看護:看護過程④ 発表会
第 10 回	簡易血糖検査【演習】
第 11 回	看護における学習支援
第 12 回	慢性的な健康状態にある人の学習支援①
第 13 回	慢性的な健康状態にある人の学習支援②
第 14 回	慢性的な健康状態で在宅療養する人への支援《外部講師》
第 15 回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学(5) 消化器 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学(6) 内分泌・代謝 医学書院

参考図書: ナーシング・グラフィカ 成人看護学6 セルフマネジメント メディカ出版

評価方法: 筆記試験 90 点 レポート 10 点

成人看護援助論Ⅱ

対応 DP: I

履修年次: 2年次 前期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員 村木 文子

Keywords: がん看護 リハビリテーション看護 生活の再構築

学習目的: がんと共に生きる人を理解し、治療を受ける患者の看護について学習する。また疾患や障がいと共に生きることを支え、QOLの向上や社会復帰に向けた生活の再構築について学ぶ。

到達目標:

1. がんと診断された人とその家族の苦痛を知り、価値観や生活を尊重したかかわりの必要性がわかる
2. がんの治療に伴う影響とその苦痛を緩和する看護について理解できる
3. 疾患や障がいと向き合い、自らの生活の再構築をするための支援について理解できる

授業内容:

第1回	がんとともに生きる人の看護①
第2回	がんとともに生きる人の看護②
第3回	がんとともに生きる人の看護③
第4回	がんの治療を受ける患者の看護①
第5回	がんの治療を受ける患者の看護②
第6回	がんの治療を受ける患者の看護③
第7回	がんの治療を受ける患者の看護④
第8回	リハビリテーション看護①
第9回	リハビリテーション看護②
第10回	中枢神経系の障害とともに生きる人の看護①
第11回	中枢神経系の障害とともに生きる人の看護②
第12回	中枢神経系の障害とともに生きる人の看護③ <<外部講師>>
第13回	循環器系の障害とともに生きる人の看護①
第14回	循環器系の障害とともに生きる人の看護②
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院
系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院

参考図書: ナーシング・グラフィカ 成人看護学6 セルフマネジメント メディカ出版

評価方法: 筆記試験 100 点

成人看護援助論Ⅲ

対応 DP: 3

履修年次: 2年次 後期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員 皆川 由香

Keywords: BLS 医療機器の管理 感染予防策 ストーマケア

学習目的: 生命の危機的状況にある人の生命を維持し回復に向けた支援を学習するとともに、事例を通して必要な看護技術を習得する。

到達目標: 1. 急性期および回復期にある人とその家族の特徴を理解し、必要な看護技術を習得できる
2. 感染予防策を学び、基礎的な能力をみにつけることができる

授業内容: 第1回 クリティカルな状況にある人の看護①
第2回 クリティカルな状況にある人の看護②
第3回 クリティカルな状況にある人の看護③
第4回 院内感染と感染予防策
第5・6回 救急応援・BLS【演習】
第7・8回 医療機器の操作と管理:心電図・輸液ポンプ【演習】
第9・10回 吸引・ネブライザー・体位ドレナージ【演習】
第11・12回 膀胱留置カテーテルの管理・感染予防策【演習】
第13・14回 ストーマケア<<外部講師>>
第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院
系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院

参考図書: ナーシング・グラフィカ 成人看護学6 セルフマネジメント メディカ出版

評価方法: 筆記試験 100 点

成人看護援助論Ⅳ

対応 DP: 3

履修年次: 2年次 後期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: 手術を受ける人の特徴 周手術期看護 生活の再構築

学習目的: 手術を受ける人の特徴と手術や麻酔侵襲から回復に向けた援助、さらに手術による形態・機能の変化に応じた生活の再構築に向けた支援について学ぶ。

到達目標:

1. 手術を受ける人の身体的・精神的・社会的特徴と家族について理解できる
2. 手術侵襲による苦痛緩和や術後合併症予防のための援助について理解できる
3. 周手術期に関連する看護技術を習得できる
4. 形態・機能の変化による生活の再構築に向けた支援について理解できる

授業内容:

第1回	手術を受ける人の理解①
第2回	手術を受ける人の理解②
第3回	手術を受ける人の理解③
第4回	周手術期看護①
第5回	周手術期看護②
第6回	周手術期看護③
第7・8回	術後1日目の観察・ケア【演習】
第9・10回	離床に向けた援助【演習】
第11回	生活の再構築に向けた支援①
第12回	生活の再構築に向けた支援②
第13回	生活の再構築に向けた支援③
第14回	生活の再構築に向けた支援④【演習】
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学(5) 消化器 医学書院

参考図書: 周手術期看護1 外来/病棟における術前看護 医歯薬出版
周手術期看護2 術中/術後の生体反応と急性期看護 医歯薬出版

評価方法: 筆記試験 100点

成人看護援助論Ⅴ

対応 DP: I

履修年次: 3年次 前期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員 三次 真理

Keywords: エンドオブライフケア アドバンスケアプランニング 意思決定支援

学習目的: 病院における人生の最期のときの問題に直面している人とその家族の苦悩に寄り添い、最期までよりよく生きるためのエンドオブライフケアについて学ぶ。

到達目標:

1. エンドオブライフケアを受ける人とその家族の苦悩について理解できる
2. エンドオブライフケアを受ける人の尊厳を守り、全人的苦痛を緩和するケアや家族の支援について理解できる
3. エンドオブライフケアにおける意思決定支援とチームアプローチの必要性がわかる

授業内容:

第1回	エンドオブライフケア概論
第2回	倫理的課題
第3回	意思決定支援・チームアプローチ
第4回	身体的ケア
第5回	精神的ケア・社会的ケア・スピリチュアルケア
第6回	臨死期のケア・家族ケア
第7・8回	エンドオブライフケア GW
第9・10回	エンドオブライフケア 発表
第11回	エンドオブライフケアの実際①<<外部講師>>
第12回	エンドオブライフケアの実際②
第13・14回	遺族の立場から<<外部講師>>
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院

参考図書: 経過別成人看護学④終末期看護:エンド・オブ・ライフ・ケア メヂカルフレンド社

評価方法: 筆記試験 100点

老年看護学概論

対応 DP: I

履修年次: 1 年次 後期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: 老い 加齢変化 発達課題 高齢社会 保健医療福祉

学習目的: ライフサイクルにおける老年期の位置づけを明確にしながら、対象を理解するための基礎的知識(加齢に伴う身体・精神・社会的変化や健康)と高齢者が生きてきた過程を踏まえその人を理解する大切さについて学ぶ。また、社会の動きをとらえ、老年期にある人の保健・医療・福祉における課題や老年看護の役割について考えることができるようにする。

到達目標: 1. 老いや高齢者の生きてきた生活背景から老年期を理解することができる
2. インスタントシニア体験から高齢者の日常生活を知り、関わりを考えることができる
3. 超高齢社会における社会保障の背景がわかる
4. 高齢者をとりまく倫理的問題について考えることができる

授業内容: 第 1 回 ライフサイクルにおける老年期:老いるということ
第 2 回 高齢者と社会:統計から見えるもの
第 3・4 回 加齢に伴う身体・精神・社会的変化①:インスタントシニア体験【演習】
第 5 回 高齢者とのコミュニケーション
第 6・7 回 地域で生活する高齢者の理解
第 8 回 加齢に伴う身体・精神・社会的変化②:まとめ
第 9 回 高齢者に関する保健・医療・福祉の動向
第 10 回 老年期を支える社会保障制度
第 11 回 高齢者における倫理的問題
第 12 回 高齢者の権利擁護と制度
第 13 回 老年看護のなりたちと老年看護の役割
第 14 回 高齢者との関わりについてのグループワーク
第 15 回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院

参考図書: 国民衛生の動向 厚生労働統計協会

評価方法: 筆記試験 100点

老年看護援助論 I

対応 DP:3

履修年次: 2 年次 前期 単位数: 2 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員 寺見 雅子

Keywords: 生活機能 日常生活援助 ヘルスアセスメント アクティビティケア 看護過程

学習目的: 加齢変化と高齢者に多い問題から老年期にある人の日常生活を理解する。さらに、その人の健康・これまでの生活史や生活習慣を理解し、高齢者の安全・安楽・QOL 向上のためのもっている力を活かした日常生活援助について学ぶ。

到達目標: 1. 加齢に伴う身体の変化や疾病をめぐる変化の特徴について理解できる
2. 老年期にある人の日常生活に焦点をあてた看護の視点がわかる
3. 事例を用いて老年期にある対象のもっている力を活かした日常生活援助がわかる

授業内容:

- 第 1 回 老年期の看護過程の展開と援助の実際
- 第 2 回 高齢者のフィジカルアセスメントと生活機能のアセスメント
- 第 3・4 回 活動と休息のアセスメントと援助
- 第 5 回 高齢者における移動・移乗介助 (関節可動域訓練)【演習】
- 第 6 回 施設におけるアクティビティの実際①
- 第 7 回 施設におけるアクティビティの実際②
- 第 8・9 回 食事・食生活のアセスメントと援助 <<外部講師>>
- 第 10 回 嚥下機能が低下している高齢者の食事の援助と嚥下リハビリ【演習】
- 第 11 回 清潔のアセスメントと援助
- 第 12 回 高齢者の口腔ケア【演習】
- 第 13 回 排泄と脱水のアセスメントと援助
- 第 14 回 高齢者における排泄ケアの実際【演習】
- 第 15 回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院

参考図書: ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実際 株式会社メディカ出版

評価方法: 筆記試験 100 点

老年看護援助論Ⅱ

対応 DP:4

履修年次: 2年次 後期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 専任教員 武藤 とみ子 関口 秀美

Keywords: 認知症 慢性疾患 自立支援 エンドオブライフケア リスクマネジメント

学習目的: 超高齢社会を踏まえ、認知症をもつ高齢者の理解と看護を学ぶ。さらに、エンドオブライフケアの考え方を踏まえ、慢性の病気とともにその人らしく生きる高齢者の看護を学ぶ。また、老年期にある人をとりまく家族へも大きな影響を与えることを理解し、家族を含めた看護について考えられるようにする。

到達目標: 1. 認知症にある人の理解を深め、認知症看護について考えることができる
2. 慢性の病気と共に生きる高齢者と家族の看護について理解できる

授業内容: 第1回 認知症の高齢者の生活
第2・3回 認知症の看護に必要な治療・ケア・予防<<外部講師>>
第4回 認知症の高齢者・家族の理解 <<外部講師>>
第5回 認知症患者のアセスメント
第6回 施設における多職種連携①
第7回 施設における多職種連携②
第8・9回 慢性の病気とともに生きる高齢者と家族の看護
第10回 呼吸器疾患で治療が必要な患者のアセスメント
第11回 臥床患者のリネン交換と環境整備【演習】
第12回 呼吸機能を整えるための看護の実際:酸素療法の実際【演習】
第13回 呼吸器疾患をもつ高齢者の退院支援
第14回 高齢者のリスクマネジメント(医療安全・災害看護の視点から)
第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院

参考図書: ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践 株式会社メディカ出版

評価方法: 筆記試験 100点

小児看護学概論

対応 DP: I

履修年次: 1 年次 後期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: 子ども 家族 子どもの権利 現代社会 成長・発達

学習目的: 小児看護の対象である子どもと家族を理解し、現代社会における子どもの存在について理解する。
子どもの権利をふまえた小児看護のあり方について理解する。
子どもの成長発達と生活について理解し、各期の特徴に適した養育と看護を学ぶ。

到達目標: 1. 小児看護の対象である子どもと家族を理解することができる
2. 子どもと家族の権利を保障し、成長・発達していく過程に応じた養育を理解できる
3. 現代社会における子どもと家族が抱える健康上の課題について考察できる

授業内容: 第 1 回 子どもとは
第 2 回 小児看護の特徴と理念
第 3 回 小児看護における倫理・法制度
第 4 回 子どもの成長発達
第 5 回 新生児・乳児期の成長発達と養育および看護①
第 6 回 新生児・乳児期の成長発達と養育および看護②
第 7 回 幼児期の成長発達と養育および看護①
第 8 回 幼児期の成長発達と養育および看護②
第 9 回 幼児期の成長発達と養育および看護③
第 10 回 学童期・思春期の成長発達と養育および看護
第 11 回 子どもと家族を取り巻く現代社会の特徴①
第 12 回 子どもと家族を取り巻く現代社会の特徴②
第 13 回 子どもの栄養
第 14 回 子どもとのコミュニケーション
第 15 回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1) 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

評価方法: 筆記試験 100 点

小児看護援助論 I

対応 DP:2

履修年次: 2 年次 前期 単位数: 2 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: インフォームドアセント プレパレーション ディストラクション 健康障害

学習目的: 子どもの健康障害とそれに伴う症状の原因や観察方法、対処方法を学ぶ。
さまざまな健康レベルにある子どもとその家族の状況をふまえ、看護援助を行うための基礎的な知識・技術・態度について学ぶ。

到達目標: 1. 子どもの病気や入院の体験が、子どもや家族に与える影響について理解できる
2. 健康障害を有する子どもと家族の特徴を理解し、看護の役割を理解できる
3. 子どもや家族の支援を行うために必要な知識・技術・態度を習得することができる

授業内容:

第 1 回	健康障害が子どもと家族に与える影響とその看護
第 2 回	おこりやすい事故への対応・感染予防と対処
第 3 回	外来における子どもと家族の看護
第 4 回	子どもの入院と看護①
第 5 回	子どもの入院と看護②
第 6 回	検査・処置を受ける子どもと家族の看護
第 7 回	子どものフィジカルアセスメント
第 8 回	急性期にある子どもと家族の看護①(入院から治療までの看護)
第 9 回	急性期にある子どもと家族の看護②(退院から在宅療養中の看護)
第 10 回	慢性期にある子どもと家族の看護①
第 11 回	慢性期にある子どもと家族の看護②
第 12 回	病気を持つ子どもの在宅移行支援
第 13・14 回	子どもの看護技術【演習】
第 15 回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1) 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 小児看護学(2) 小児臨床看護各論 医学書院

評価方法: 筆記試験 100 点

小児看護援助論Ⅱ

対応 DP:4

履修年次: 2年次 後期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 専任教員 山口 かおり

Keywords: 倫理 看護過程 子どもの意思決定支援(ACP)

学習目的: 病気や障害をもつ子どもの成長・発達を促進する視点や、多職種と連携して支援をおこなう看護の役割が理解できる。

到達目標: 1. 病気や障害をもつ子どもと家族に対する長期的な視点を持ち、継続看護について理解できる
2. 子どもとその家族の状況をふまえ、支援を行うための多職種連携や看護を考えることができる

授業内容:

第1回	手術を要する疾患をもつ子どもと家族への看護
第2回	長期的な支援を必要とする子どもと家族への看護①
第3回	長期的な支援を必要とする子どもと家族への看護②
第4回	長期的な支援を必要とする子どもと家族への看護③
第5回	小児がんの子どもと家族への看護
第6回	子どもと家族の緩和ケア<<外部講師>>
第7回	子どもと家族の看護①(情報整理)
第8回	子どもと家族の看護②(アセスメント~看護計画立案)
第9回	子どもと家族の看護③(アセスメント~看護計画立案)
第10回	子どもと家族の看護④(検討会・発表)
第11回	子どものバイタルサイン測定・検査介助【演習】
第12回	子どもと家族の看護⑤(遊びの援助・学習支援)
第13回	遊びの援助・学習支援発表【演習】
第14回	子どもと家族の看護⑥
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 小児看護学(1) 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
系統看護学講座 専門分野 小児看護学(2) 小児臨床看護各論 医学書院

評価方法: 筆記試験 100点

母性看護学概論

対応 DP: I

履修年次: 1 年次 後期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員 伊藤 充代

Keywords: 母性 母性看護 リプロダクティブヘルス/ライツ ライフサイクル

学習目的: 母性の概念、リプロダクティブヘルス/ライツの理念と母性看護の対象及び看護の役割について学習する。母性看護の変遷や母子保健統計の動向など幅広い視点から母性看護の対象を統合的に理解し、ヘルスプロモーションのための基礎的知識を修得する。

到達目標:

1. 母性看護の基盤となる概念や理論、母性看護の目的や役割を理解する
2. セクシュアリティの発達を学び、多様な性のあり方と健康への支援について理解する
3. 母性看護の変遷や母子保健統計、法律や施策から母子を取り巻く現況や母性看護における役割や課題について理解する
4. ライフサイクル各期の特徴と健康支援、リプロダクティブヘルスケアについて理解する
5. 母性看護における生命の尊重や生命倫理について考えを深めることができる

授業内容:

第 1 回	母性看護の概念 リプロダクティブヘルス/ライツ
第 2 回	母性看護の対象・役割
第 3 回	セクシュアリティ
第 4 回	母性看護に関わる理論
第 5 回	母性看護変遷と現況 母子保健統計の動向
第 6 回	母性看護に関する法律および主な母子保健施策
第 7 回	地域における母子保健活動の実際 <<外部講師>>
第 8 回	女性のライフサイクルと健康① 性周期と女性のライフサイクル
第 9 回	女性のライフサイクルと健康② 思春期の特徴と看護
第 10 回	女性のライフサイクルと健康③ 成熟期の特徴と看護
第 11 回	女性のライフサイクルと健康④ 更年期の特徴と看護
第 12 回	リプロダクティブヘルスケア
第 13 回	不妊症・生殖医療
第 14 回	母性看護と生命倫理
第 15 回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 母性看護学(1) 母性看護学概論 医学書院
国民衛生の動向 厚生労働統計協会

参考図書: 系統看護学講座 専門分野 成人看護学9 女性生殖器 医学書院

評価方法: 筆記試験 100 点

母性看護援助論 I

対応 DP:2

履修年次: 2年次 前期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 専任教員 荒瀬 透

Keywords: 母性 妊娠 分娩 胎児

学習目的: 妊娠期・分娩期・胎児期の生理や正常な経過について学習し、妊産婦、胎児及びその家族へ看護を実践するための基礎的な知識を学習する。

到達目標:

1. 妊産婦の身体的変化、心理・社会的変化について理解する
2. 胎児の発育と生理について理解する
3. 対象や家族の新しい役割獲得に向けた支援(課題)について理解する
4. 妊産婦、胎児の健康の保持・増進に向けたセルフケア能力を高める援助を理解する

授業内容:

第1回	妊娠の生理および胎児の発育
第2回	妊娠の心理・社会的変化と看護
第3回	妊婦の健康診査
第4回	妊婦および家族への看護
第5回	妊婦健診の実際 妊産婦諸計測・レオポルド触診法、学習支援【演習】
第6回	妊婦健診の実際 妊産婦諸計測・レオポルド触診法、学習支援【演習】
第7回	ハイリスク妊娠と妊娠期の異常 <<外部講師>>
第8回	マイナートラブル、ハイリスク妊娠への看護
第9回	分娩の3要素
第10回	分娩の機序と経過
第11回	分娩期の心理・社会的特徴と看護
第12回	産婦及び家族への順調な分娩経過のための看護
第13回	分娩期の看護の実際【演習】
第14回	ハイリスク分娩と分娩期の異常 <<外部講師>>
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 母性看護学(2) 母性看護学各論 医学書院

参考図書: 写真でわかる母性看護学技術 インターメディカ
ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護技術 メディカ出版

評価方法: 筆記試験 100点

母性看護援助論Ⅱ

対応 DP:4

履修年次: 2年次 後期 単位数: 2単位 時間数: 30時間

担当教員: 専任教員

Keywords: 母性 産褥 新生児 母親役割獲得 継続支援

学習目的: 産褥期・新生児期の生理や正常な経過について学習し、褥婦、新生児及びその家族へ看護を実践するための基礎的な知識を学習する。

到達目標:

1. 褥婦の身体的変化について理解し、復古促進のための援助について学ぶ
2. 褥婦・家族の心理・社会的変化について学習し、母親役割獲得や新たな家族関係の構築に向けた支援の必要性について理解する
3. 構築に向けた支援の必要性について理解する
4. ウェルネスの考え方をもと、対象のセルフケア能力を高め、退院後も母子及びその家族がより健康の維持・促進ができるための継続支援の必要性について理解する
5. 新生児の胎外生活適応過程について理解し、正常に経過するための援助を学ぶ

授業内容:

第1回	産褥の生理
第2回	褥婦の心理・社会的変化と看護
第3回	産褥早期における褥婦への援助
第4回	褥婦および家族へ退院に向けての援助
第5回	退院後の継続支援の実際
第6回	産褥期の看護過程の展開と援助の実際
第7回	褥婦の看護の実際 子宮復古・全身の観察・乳房の観察と援助【演習】
第8回	異常のみられる褥婦の看護
第9回	新生児の生理
第10回	胎外生活適応を促すための援助① 出生直後の新生児の看護
第11回	胎外生活適応を促すための援助② 出生後から退院時までの看護
第12回	新生児期の看護過程の展開と援助の実際
第13回	新生児のバイタルサイン測定・全身観察・沐浴【演習】
第14回	異常経過のみられる新生児の看護
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学(2) 母性看護学各論 医学書院

参考図書: 写真でわかる母性看護学技術 インターメディカ
ナーシング・グラフィカ 母性看護学② 母性看護技術 メディカ出版
ウェルネスからみた母性看護過程 医学書院

評価方法: 筆記試験 100点

精神看護学概論

対応 DP:2

履修年次: 1 年次 前期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: こころの成長発達 ストレスと危機 コーピング 防衛機制 リエゾン精神看護

学習目的: 人のこころはどのような構造や機能があるのか、人のこころ(精神)について学ぶ。また、人のライフサイクルにおけるこころの成長発達と危機的状況に陥った時にどのようなこころの動きがあるかを理解し、自分自身や看護の対象となる人がより健康なこころを保持・増進していくための基礎的知識を学ぶ。更に、精神看護を実践していくための基礎となる援助的人間関係を築くための基礎的知識を学ぶ。

到達目標: 1. 精神看護学の目的、対象、看護師の役割などを理解することができる
2. こころの成長発達と取り巻く環境における危機的状況とその介入方法がわかる
3. こころと身体との関連、危機におけるこころの防衛機制がわかる
4. 精神看護を実践するための援助的人間関係とその発展過程がわかる

授業内容: 第1回 精神看護学とは
第2回 私たちの学ぶ精神・こころとは
第3回 乳児・幼児期のこころ
第4回 学童期のこころ
第5回 青年期のこころ①
第6回 青年期のこころ②
第7回 成人期のこころ①
第8回 成人期のこころ②
第9回 壮年期・老年期のこころ
第10回 健康なこころを保持・増進していくために
第11回 患者-看護師関係の理解
第12回 患者-看護師関係の発展過程
第13回 医療場面における危機的状況への介入
第14回 リエゾン精神看護
第15回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 精神看護学(1) 精神看護の基礎 医学書院
系統看護学講座 専門分野 精神看護学(2) 精神看護の展開 医学書院

参考図書: ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版
ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版

評価方法: 筆記試験 100 点

精神看護援助論 I

対応 DP:2

履修年次: 2 年次 前期 単位数: 1 単位 時間数: 30 時間

担当教員: 専任教員

Keywords: 精神障害 精神症状(思考・知覚障害等) 薬物療法 精神療法 人権擁護

学習目的: ころを病むとは、精神障害の捉え方を理解し、更には日本の精神障害者医療の歴史と関連する法律を学ぶ。主な精神症状の観察とアセスメントの視点など基礎的知識を学習し、演習を通してコミュニケーションを活用した治療的かかわりの実際を学ぶ。また、精神に障害のある人の各治療・日常生活における看護を学ぶ。

到達目標: 1. 精神障害の捉え方や精神障害者の歴史と関連する法律が理解できる
2. 主な精神症状の観察・アセスメントの視点と看護の方向性が理解できる
3. 精神に障害のある人への治療的かかわりを理解できる
4. 精神に障害のある人の各治療・日常生活における看護がわかる
5. 精神に障害のある人の人権擁護・事故防止の視点がわかる

授業内容: 第 1 回 ころを病むということ 精神障害の捉え方
第 2 回 精神障害者の歴史と背景
第 3 回 主な精神症状の観察とアセスメントの視点と看護の方向性①
第 4 回 主な精神症状の観察とアセスメントの視点と看護の方向性②
第 5 回 主な精神症状の観察とアセスメントの視点と看護の方向性③
第 6 回 主な精神症状の観察とアセスメントの視点と看護の方向性④
第 7 回 精神に障害のある人への治療的かかわり①
第 8・9 回 精神に障害のある人への治療的かかわり②③【演習】
第 10 回 精神に障害のある人への治療的かかわり④振り返り
第 11 回 精神に障害のある人の治療における看護①
第 12 回 精神に障害のある人の治療における看護②
第 13 回 精神に障害のある人の日常生活における看護
第 14 回 精神に障害のある人の人権擁護・事故防止
第 15 回 まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 精神看護学(1) 精神看護の基礎 医学書院
系統看護学講座 専門分野 精神看護学(2) 精神看護の展開 医学書院

参考図書: ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版
ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実際 メディカ出版

評価方法: 筆記試験 100点

精神看護援助論Ⅱ

対応 DP:4

履修年次: 2年次 後期 単位数: 2単位 時間数: 30時間

担当教員: 専任教員 霜島 隆晴

Keywords: 統合失調症 看護過程 気分障害 ストレス関連障害 依存症 地域精神保健

学習目的: 精神に障害のある人、及びその家族への看護の基礎的知識として、精神に障害のある人への必要な看護や援助方法を学ぶ。また、地域で生活する精神障害者の理解と支えるための法律や地域精神保健などのシステムを学ぶ。

到達目標:

1. 統合失調症のある人への看護が理解できる
2. 気分・神経症性・ストレス関連障害などのある人への看護が理解できる
3. 精神障害者を支える家族への看護がわかる
4. 地域で生活する精神障害者の理解とそれを支えるための法律やシステムがわかる

授業内容:

第1回	統合失調症のある人への看護
第2回	統合失調症のある人への看護過程の展開①
第3回	統合失調症のある人への看護過程の展開②
第4回	統合失調症のある人への看護過程の展開③
第5回	統合失調症のある人への看護過程の展開④
第6回	統合失調症のある人への看護過程の展開⑤
第7回	統合失調症のある人への看護過程の展開⑥
第8回	気分障害のある人への看護
第9回	神経症・ストレス関連障害のある人への看護
第10回	パーソナリティ障害のある人への看護
第11回	依存症のある人への看護
第12回	精神障害者を支える家族への看護
第13回	地域で生活する精神障害者の理解
第14回	地域における精神障害者を支えるシステム<<外部講師>>
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 精神看護学(1) 精神看護の基礎 医学書院
系統看護学講座 専門分野 精神看護学(2) 精神看護の展開 医学書院

参考図書: ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版
ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版

評価方法: 筆記試験 100点

災害看護

対応 DP:4

履修年次: 2年次後期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 専任教員 中嶋 康広 前原 則子

Keywords: 災害サイクル 防災 こころのケア 連携

学習目的: 被災地での人々の生命と生活を守るための基本的知識と連携について学ぶ

到達目標:

1. 災害、災害看護の基本的知識を理解し、姿勢、役割について考えることができる
2. 災害各期における人々の生活に及ぼす影響を理解できる
3. トリアージ・救護所・避難所における看護や連携が理解できる
4. 災害がもたらす精神的影響とそのケアについて考えることができる

授業内容:

第1回	災害とは
第2回	災害看護とは
第3回	地域による防災への取り組み①
第4回	地域による防災への取り組み②
第5回	災害における連携と対策<<外部講師>>
第6回	超急性期～亜急性期における災害看護<<外部講師>>
第7回	亜急性期～慢性期における災害看護<<外部講師>>
第8回	慢性期～静穏期における災害看護<<外部講師>>
第9回	災害チームにおけるストレスマネジメント<<外部講師>>
第10・11回	トリアージ・救護所における看護の実際【演習】<<外部講師>>
第12・13回	避難所における看護の実際【演習】<<外部講師>>
第14回	こころのケア
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(3) 災害看護学・国際看護学 医学書院

評価方法: レポート 100点

医療安全

対応 DP:5

履修年次: 2年次 後期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 専任教員 新村 美佐香

Keywords: 医療安全 ヒューマンエラー 医療事故 看護事故 KYT 看護師の責務

学習目的: 医療安全に向けた組織全体の取り組みが理解でき、専門職業人として、安全を考慮した看護実践の必要性が理解できる。

到達目標:

1. 医療安全の基本となる考え方を理解できる
2. 医療安全における看護師の役割・責任について理解できる
3. 看護における医療安全の取り組み、医療事故予防について理解できる
4. 組織としての医療安全対策について学ぶ
5. リスク感性を養う
6. 事故防止の視点からどのような知識・技術が必要か理解できる

授業内容:

第1回	医療安全を学ぶ意義、ヒューマンエラー、看護師の責務
第2回	医療事故の構造、看護事故防止の考え方、重大事故発生時の対応
第3回	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因、多重課題
第4回	医療安全とコミュニケーション
第5回	組織としての医療安全対策、安全文化の醸成
第6回	組織的な安全管理体制への取り組みの実際<<外部講師>>
第7回	事故分析<<外部講師>>
第8回	KYTの理論<<外部講師>>
第9回	KYTの実際(GW)<<外部講師>>
第10回	KYTの実際(GW、まとめ)<<外部講師>>
第11・12回	診療の補助の事故防止、注射業務と事故防止【演習】
第13・14回	療養上の世話の事故防止、転倒・転落【演習】
第15回	まとめ・評価

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(2) 医療安全 医学書院

参考図書: ナーシング・グラフィカ 医療安全 メディカ出版
医療におけるヒューマンエラー 医学書院

評価方法: 筆記試験 100点

看護管理

対応 DP:5

履修年次: 3年次 前期 単位数: 1単位 時間数: 30時間

担当教員: 専任教員 砂田 麻奈美 黒木 利恵

Keywords: 看護管理 ヘルスケアシステム マネジメント 看護職のキャリア 人材育成

学習目的: 質の高い医療・看護を提供するために、マネジメントに必要な要素を理解する。多様化、複雑化する社会において、ヘルスケアシステム、制度・政策、組織運営に影響する要素を探索する。専門職業人としての生涯教育の必要性和自分自身の将来展望を探究することができる。世界における保健医療問題を国際的視野で概観し、国際協力の必要性和国際看護活動について学び看護の役割と展望について考える。

- 到達目標:
1. 看護管理の概念・基礎的理論を理解する
 2. 看護サービス及びその質のマネジメントに関する諸概念を理解する
 4. 看護を提供する組織における人的資源とそのマネジメントの方法について理解する
 5. 医療・看護を担う専門職としての自己の役割について考察する
 6. 世界の健康問題、保健医療問題の現状、看護における国際協力について理解する
 7. 世界の感染症動向と国際保健における感染症対策の重要性和その実際を理解する
 8. 看護の国際貢献の現状と課題について理解する

- 授業内容:
- | | | |
|--------|------|---|
| 【看護管理】 | 第1回 | 看護管理の概念・基礎的理論(看護管理と組織、看護を取り巻く諸制度) |
| | 第2回 | 看護管理の概念・基礎的理論(多職種協働に必要な組織マネジメント) |
| | 第3回 | 看護管理とヘルスケアシステム①(医療に関わる法や制度、診療報酬・介護報酬) |
| | 第4回 | 看護管理とヘルスケアシステム②(医療に関わる法や制度、診療報酬・介護報酬) |
| | 第5回 | 看護サービスのマネジメント①(組織論、リーダーシップ、マネジメント) |
| | 第6回 | 看護サービスのマネジメント②(倫理的問題と倫理課題に対する組織対応) |
| | 第7回 | 看護サービスのマネジメント③(感染症対策における組織管理) <<外部講師>> |
| | 第8回 | 看護サービスのマネジメント④(トップマネージャーによる組織マネジメント) <<外部講師>> |
| | 第9回 | 看護管理の実際①看護職のキャリア形成と人材育成 |
| | 第10回 | 看護管理の実際②情報の活用と管理、質保証とリスクマネジメント |
| 【国際看護】 | 第11回 | 国際社会の現状と国際看護活動 <<外部講師>> |
| | 第12回 | 国際看護の基本と異文化理解 <<外部講師>> |
| | 第13回 | 世界の感染症の動向と国際保健における感染対策 <<外部講師>> |
| | 第14回 | 国際協力と国際看護活動(国際協力の現状と実践活動) <<外部講師>> |
| | 第15回 | まとめ・評価 |

テキスト: 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(1) 看護管理 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践(3) 災害看護学・国際看護学 医学書院

評価方法: 筆記試験 (看護管理 70点 国際看護 30点)

看護の統合演習

対応 DP:3

履修年次: 3年次 後期

単位数: 1単位

時間数: 15時間

担当教員: 専任教員

Keywords: 統合演習 臨床判断能力 看護実践能力 シミュレーション

学習目的: これまで学習した知識や技術を統合し、対象の状態を的確に判断する能力を養う。

到達目標:
1. 限られた情報・時間の中で、対象に必要な観察が実施できる
2. 観察を通して得た情報から対象の状況に応じた看護を考えることができる

授業内容:

第1・2回	臨床判断能力とは シミュレーション事前学習
第3・4・5・6回	事例を活用したシミュレーション【演習】 ・実践は個人で実施し、交代する ・その場で観察、アセスメントし、判断したことから必要な援助を考え、実施する ・その時の判断、必要な看護をグループでディスカッションしながら考えていく
第7回	グループ発表
第8回	評価

評価方法: レポート 100点